五島慶太翁 顕彰事業 開催レポート

五島慶太翁の生誕130年を契機として、
都市大グループでは各種顕彰事業が多数行われています。
自分の通う学校や都市大グループの歴史を知り、
都市大グループの祖である慶太翁の理念・志を学ぶ
最適な機会となる事業の数々を、以下にご紹介します。

レポート1 小学校高学年及び中学生向けの伝記『五島慶太伝』刊行、道徳教育の副読本に

東京都市大学グループの祖・五島慶太翁の生誕130年を記念する出版事業として、昨年刊行された「熱誠」（写真左）に続いて、2冊目となる書籍「五島慶太伝」（写真右）が刊行されました。『熱誠』が慶太翁の教育事業を都市大グループの歴史とともにつづる年史であるのに対し、『五島慶太伝』は小中学生向けに、慶太翁の生い立ちなどをやさしくまとめた伝記で、グループ内の小学校高学年及び中学生全員に配付されています。また『五島慶太伝』は現在、英語版も製作されており、こちらは高校生向けに配付される予定です。

文部科学省はこの4月から、小中学校の道徳の授業で使用する新教材『私たちの道徳』を公表しており、他人を思いやる心や善悪の判断などの規範意識、道徳性を、偉人や尊敬する人物に学んでいこうという方向性を打ち出しています。一方、慶太翁は名立たる実業家であるばかりでなく、教育者であり、文化人であり、大臣まで経験した立志伝中の大人物。し

かもその道徳観念、教育や国家の繁栄にかける強い情熱など人格面でも大変すばらしい方であることなどから、都市大グループでは創設者の理念に基づく教育を推進する上でも、また自校教育の面からも、この『五島慶太伝』を道徳教育の副読本として、ぜひ子供たちに読んでもらいたいと考えています。

4月18日にはこれら2冊の本の刊行を記念し、都市大世田谷キャンパス・五島記念館メモリアルホールで出版記念パーティーを開催、『熱誠』の発刊にあたりご寄稿いただいた亜細亜学園の上條清文理事長をはじめ、執筆に携わった関係者や各学校長らが参列し、“教育者・五島慶太翁”の功績談義に花を咲かせました。

レポート2 慶太翁の生誕記念行事を開催 大学の歴史を振り返る機会に

慶太翁の生誕記念日にあたる4月18日に、東京都市大学では自校教育の一環として、記念行事が開催されました。

多数の学生、教職員の参加のもと行われた記念行事では、都市大グループ学園歌「夢に翼を」の斉唱に続いて渡辺一郎学生部長、片田敏行副学長よりそれぞれお話がありました。渡辺学生部長は、慶太翁が筑波大の前身である東京高等師範学校に在学中、当時の校長であった加納治五郎先生から、なにごとも「なあに、このくらい」と考えよという薫陶を受けたエピソードを紹介し、我々もそうした精神を受け継いで、今後直面する課題に「なあにの精神」で向かっていこうと述べました。また片田副学長は学生の自治の精神から生まれた旧・武蔵工業大学を、慶太翁が折に触れ手厚く支援し、そうした慶太翁の教育への熱意が今の東京都市大学として結実したことを紹介。こうした大学の歴史や設立時の思いを振り返る機会を、今後も折に触れ設けていきたいとの考えも示しました。

最後に学生が慶太翁の胸像の前で、1年間の安全と活躍を祈念・宣言し、東京都市大学校歌の斉唱で幕を閉じました。

当日は慶太翁の教育事業や都市大の歩みを紹介するリーフレットが配布されたほか、慶太翁の生誕の地である長野県小県郡青木村とのコラボレーション企画として、学生食堂にて青木村産きのこを使った「五種のきのこ春巻き」の配布、特別メニュー「長野名物ソースかつ丼」「信州山菜そば」の販売なども行われ、好評を博していました。

レポート3 慶太翁の生誕地とのコラボレーション企画が実現

慶太翁の生誕地である、長野県小県郡青木村およびその周辺地域とのコラボ企画も2件行われました。

まず4月27日（日）には、長野県上田市の上田創造館にて「東京都市大学シンポジウムin上田　－市民と夢を語り合う－」（主催：東京都市大学、信濃毎日新聞社）が開催されました。慶太翁の生誕地で市民向け教育講座を行いたいという都市大・北澤宏一学長の発案により実施されたもので、理化学研究所・名誉研究員の丸山瑛一先生（上田市ご出身）、2000年にノー

ベル化学賞を受賞された白川英樹先生を講師としてお迎えしました。丸山先生が「世界的大発明と活かすべき日本の特許と技術」、白川英樹先生が「昆虫少年がノーベル化学賞を受賞するまで」と題しご講演をされましたが、ともに自らの夢や好奇心にしっかり向き合うこと、また長野という自然豊かな地に住むことに誇りを持ち、自然とともに学んでいくことの大切さをあらためて考えさせられる内容で、約400名の参加者は熱心に耳を傾けていました。

また5月10日（土）には、青木村の北村政夫村長（写真）を講師としてお招きし、「五島慶太翁生誕の地　青木村」と題した都市大グループ全事務職員対象の集合研修が、都市大世田谷キャンパスにて行われました。講演では、長野県と青木村のご紹介や、慶太翁が生まれ育った地の様子、また地元での慶太翁顕彰事業についてもご紹介いただきました。「慶太翁が食べたであろう馬肉うどん」など、生誕地のリアルな暮らしぶりがうかがわれるお話もあり、また今後は部活の合宿などでもぜひ交流を深めていければ、と呼びかけられました。

レポート4　等々力中高で自校教育「五島慶太先生を学ぶ会」開催

5月28日（水）には等々力中高体育館にて、自校教育の一環として、同校の全校生徒約1000名が学校の歴史と慶太翁の教育事業について考える、「五島慶太先生を学ぶ会」が開催され、五島育英会の國分榮専務理事の講演、および花育・環境委員会の生徒を中心とした献花プロジェクトが行われました。

校名変更からはまだ間もない同校ですが、その前身は1939年に五島慶太翁により設立された東横商業女学校であり、設立から75年という長い歴史があります。原田豊校長は、東横商業女学校開校式で慶太翁が式辞の中で述べられた教育に関する基本的な考え方は、都市大等々力中高になった今も脈々と受け継がれており、「ノブリス・オブリージュとグローバルリーダーの育成」と表現を変え、教育の指標となっていると述べられました。

五島慶太翁生誕130年記念誌「熱誠」編集の中心的役割を担ってきた國分専務理事は、創立者「五島慶太翁」の教育者としての功績、東横商業女学校を中心に都市大グループの歴史などを紹介。「慶太翁がそのときにこの学校を作らなければ、今日こうした形で縁を結ぶことはできなかった。また学校の個性や伝統は、先人たちの思いが凝縮して今に伝えられており、それらはまさに私学の財産であり、誇りである。都市大等々力に集うものとして、両親を敬うのと同じように、慶太翁の想いや人となり、教育への情熱についてしっかりと理解していきたい」と語りました。

その後、校歌斉唱を経て、生徒一人ひとりがカーネーションを用いて「noblesse oblige」の文字を作成。花育・環境委員会の生徒により正門前の五島慶太翁胸像の前に献花されました。

レポート5　慶太翁生家の実測、復元模型制作研究、五島育英基金教育研究奨励事業に

都市大工学部建築学科の勝又英明教授を中心とした研究チームによる「五島慶太翁の生家の実測、復元模型制作教育プロジェクト」が、このたび五島育英基金教育研究奨励に採択され、6月より研究を開始します。

このプロジェクトは、五島慶太翁の教育者としての業績を顕彰するとともに、生誕地の青木村に現存する歴史的意義の高い建築物“慶太翁の生家”を、現時点で実測のうえ図面化し、その図面をもとに模型化するというもの。後世に伝える事業としても大変意義深いもので、現在慶太翁の生家を管理されている上野雅幸氏や青木村の北村政夫村長らの協力を得ながら、勝又教授と大学院工学研究科建築学専攻修士課程の学生、法人本部総務グループの渡辺透専任部長らがチームで研究にあたります。

広江常務（右）より証書を授与される、勝又教授（中）と渡辺専任部長（左）

5月22日（木）には、都市大世田谷キャンパスにおいて研究奨励給費の授与式が行われ、広江秀夫常務理事より、勝又教授、渡辺専任部長に証書等が授与されました。

このプロジェクトの経過は、今後のゆうわでもご紹介していく予定です。